

第5回南部町立小学校適正規模等検討委員会 議事録

- ◇ 日 時 平成27年6月4日（木） 午後7時00分開会
午後9時00分閉会
- ◇ 場 所 南部町役場分庁舎第201会議室
- ◇ 出席者 尾山幹雄委員長 深澤謙治委員 若林一明副委員長 山本純司委員 遠藤友佳子委員 森田和人委員 佐野よし子委員 志村勝也委員 萩原敬委員 木内利明委員 山本泰輝委員 国友昭伸委員 佐野 久委員
渡辺拓雄教育長 青木司学校教育課長 遠藤 賢主幹 若林将基主幹
- ◇ 欠席者 遠藤優一委員 望月幸司委員

〔第5回検討委員会開会〕

- ・開会あいさつ 教育長
- ・委員委嘱 志村勝也委員、山本泰輝委員、佐野 久委員を委嘱する。
(旗持委員、佐野委員、四條副委員の退任に伴う委嘱)
- ・委員長あいさつ 委員長
- ・副委員長の選出 若林一明委員を選出

① 町立小学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方と具体的な方策について

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委 員) 手引書には小規模校のメリットが書かれているが、今回の資料にはこれらが掲載されていないのはなぜか。課題のみが記載されているのはなぜか。

事務局) 手引書にある小規模校のメリットデメリット部分については前回の会議で説明をさせていただき、その後の協議の中で小学校をグループ分けし、万沢小学校と富河小学校を焦点化することが意見集約された。今回の資料は、集約された意見を重視し、その方向性で作成した。そのため小規模校のデメリットが突出しているように思われるかもしれないが、メリットもあることを前提としたうえでの記述となっている

委員長) メリットデメリットの議論は十分行い、そのうえで今回示した具体的方策を導き出すため内容となっている。

委 員) 今の時点でAグループの万沢小と富河小の統合が既に決定しているということか。

委員長) そこまでの結論には至っていない。しかし統合をした方が良いという意見が多い事も事実である。そういう過程を経て具体的方策を検討し、今回の資料を作っている。

委 員) 第1回会議においてメリットデメリットの議論は既に十分されたと思う。そのうえでの記述であり、決してデメリットを強調したという印象はない。

委 員) 今までいろいろな議論がされ、それらを総合的に勘案して方向性を決めている。また、近所の夫婦は、母親の働き場所がないので富士宮へ転居したケースもあり、それらの対策もしていかなければならない。

委 員) かつて陵草小は各学年20人以上いた。学校がなくなることによって地域が衰退していくこともある。そう考えた時に目先の理由のみで統合するとさらに人はいなくなると思う。

- 委員) そういうこともあるかもしれないが第一に子供の教育環境を整えていかなければならず、学校が残っても児童がいない状態になってはいけない。
- 委員) 小さい学校だからこそできる教育はあると思う。
- 委員長) 前回会議のなかで、委員から仮に自分が万沢地区に引越しして来ても、学年人数が少ない万沢小よりも富河小に通学させたいという思いになるかもしれないという意見があった
- 委員) そういう考え方をする保護者がいればそうでない人もいる。市川東小のように、学校に通う児童がいれば少人数でも残すという考え方をする町もある。
- 委員) いろいろな考え方がある。そのことについては今までたくさんの議論をしてきた。そのうえで万沢小と富河小の統合を焦点化することを決めた。それを踏まえた具体的方策であるとする。なお、小学校の通学区域については、現在の通学区域にとらわれることなく検討をした方がよいのではないかと。
- 事務局) H20年のアンケート調査を踏まえて、今回、通学区域には言及していないが、再度検討したい。
- 委員) 今後、仮に栄小と睦合小が統合することがあった場合には井出、十島の児童は近い小学校を選ぶのではないかと。そのことも考慮する必要がある。
- 委員) 話し合いのなかでは、統合するということが決定ということで進むということなのか。まずそのことを確認してほしい。
- 委員) メリットデメリットについては十分議論し、結論としてメリットもあるけれどデメリットも多く、また特に極端に人数が少なくなって2人、3人になってしまうと学校としてデメリットを最小限化する努力をしても限界があるのではないかと、特に万沢地区は児童数が少なくなり、保護者も統合を望む声が多い状況では、検討委員会では統合をした方が良いのではないかと。言うところまで話は進んでいる。
- 委員) そのことが検討委員会で確認されているのか。
- 委員長) いままで議論をされてきた方々が反対の意見がなければその方向でいく、という状況である。
- 委員) いろいろなメリットデメリットは当然あるが、アンケート結果が前回よりも今回の方が統合を望む声が多かったことや自由記述に統合を強く望む意見があり、保護者の意識が色濃く出ていることは否定できない。また地域も前回の結果と変わってきているのが大きいと思う。現在まではそのような経過であった。
- 委員) 万沢と富河の統合については、すでに保育園が統合していることも理由である。そのことから統合はやむを得ないという意見もあった。
- 委員) 今回のアンケートについて全てを読ませていただいたが、保護者と教職員から統合に導くような設問ではないかという意見を耳にした。アンケートは問い方によって、どんどん流れてしまう。今回、特にそこが大きかったと思う。私自身も見直した時に、統合について総論は賛成という受け取りをしているが、万沢小と富河小の統合について聞いた場合、はたしてどういう結果が出るかと考える。そういったところを取らないと本当の地域住民の思いが汲み取れないと感じた。このアンケートを鵜呑みにして、はじめから統合ありきで、誘導して統合にもって行って、その裏付けをこのアンケートでとっているのだと思っている保護者もいる。少なくとも、アンケート内容からそういう風に思われている人が多いということを私たちは知っておかなければならない。
- 委員) 検討委員ではアンケート内容も充分検討した。はじめから統合ありきではなかった。

- 委員長) 事実として結果がでており、アンケート結果を否定することはできない。アンケート結果に反して、結論を出すことは問題を生ずるであろう。
- 委員) そういった意見がある中で、あらためて各論を問うアンケートを実施した方がいいのではないか。
- 委員) 第1回会議において、統合ありきでないことを確認して協議を開始し、またアンケートの設問内容も充分検討しており、また自由記載欄も設けているので、もしアンケートに批判があれば自由記載欄に意見がでてくるだろうと思う。各論については自由記載に書かれていると思われる。再度アンケートを取るのには反対である。
- 委員) アンケート結果を踏まえて、万沢小と富河小の統合計画についてどう思うか、アンケートや地域説明会などを行った方が良いと思う。
- 委員) 調査票のなかで統合に導くという部分は具体的にどの部分か。
- 委員) アンケートの中では、万沢小と富河小が統合する例示はしていない。具体的な設問があっても良かったと思う。
- 委員) アンケートで具体例についての統合賛成、反対を行うと、結果が先行し、検討委員会の検討の意味が薄れる。
- 委員) ○委員が本日はじめて会議に参加されたので、現状の方向性を疑問視されるのは良く理解できる。資料についてであるが、1ページ目の(2)前回答申との整合性を重視するとあるが、「参考にする」程度の意識しかなく「重視する」という意識はなかったもので、この言い方であると統合ありきと受け取られるかなあと思う。
- 委員長) 「参考にする」等に変更したいと思う。少なくとも「重視する」という言い方はやめる。
- 委員) 通学区域の記載についてはどうか。Bグループを検討する場合は、必ず通学区域の見直しも必要になる。
- 委員) 7ページにあるように、AグループとBグループ統合時期にはタイムラグがあり、Bグループの検討の際にあっては通学区域の見直しは当然行われるものであるから、その時には通学区域も検討するというような書き方でどうか。
- 委員) 万沢保育所と富河保育所の統合と小学校の統合の検討が連携されなかったのは良くなかった。今後、栄保育所と睦合保育所も統合の検討をしていくから、その際には、保育所と小学校の統合は一体化していなければならぬというような記載をした方がいいのではないか。保育所と小学校の歩みを一緒にしてほしい。
- 委員) 保育所の統合は決まっていて小学校の統合を検討するのはおかしい話である。一緒に考えるのが普通。
- 委員) 幼稚園の関係もあるので、別問題として考える必要がある。ただし、町はそういう意見があるということを知っておかなければいけない。
- 委員) そういう保育所の統合もあって、アンケートが来て、保護者が小学校の統合ありきというような思いになってしまっていた。
- 委員) ここまで来た以上はいかにアンケートや検討委員会で議論したことを町民に説明するかだと思ふ。町民にいかに理解してもらおうか。
- 委員) 説明会等のやり方は？
- 事務局) 中学校の統合時の状況を例にとれば、答申が教育委員会にされ、教育委員会は検討した後に具申書を町長に提出することになる。具申の内容については、議会に説明するとともに地域住民に十分に説明して理解を得る必要がある。その点については時間をかけて丁寧に

行っていきたい。

委員長) 住民への説明方法について、検討委員会でも以前に出ましたね。

事務局) 答申を出す前にもアンケート結果を踏まえた住民説明会を行った方が良いのではないかと
いう案があったが、具体的な今後の計画が決まっていない状況では、説明内容に限りがある
ので、しっかりとした方針を町で決定したのちに説明会を行った方が良いという意見が
多かった。

教育長) 教育委員会が答申を受け取り、どういう形で具申として町長に提出し、町民の方々に説明
するかは、前回の例ということで先ほど事務局で答えましたが、どういう方法によるかは、
今後、教育委員会で検討していきたい。ただし、町民の皆さまには十分なそして丁寧な説
明をしていくことは約束したい。

委員) 保育所の問題を答申に記載するのはやはりできないと思う。

委員) 保護者側からするとやはり保育所と小学校の統合の検討は同時に方が良く、今後、栄と睦
合を検討する場合は十分留意してもらいたい。

副委員長) 文書の書き方の訂正をお願いしたい。1ページの(1)の後段の言い回し。2ページの(3)
の後段は削除した方が良い。6ページの(1)①、②の文書の終わりの言い回しを変えた
方が良い。

委員) 今回の資料を各委員が持ち帰って、字句とか言い回しあるいは考え方の問題等の確認をし、
修正するところは修正し、もう一回この資料について検討し、余裕をもって9月位には答
申を出したらどうか。

委員) 配慮すべき事項において、地域社会との関係があげられているが、小学校では地域学習が
あり、学校が無くなってしまうと地元の学習ができなくなるので、引き続き地元学習をで
きる文言を入れた方が良い。地域に児童がおらず、また地域を学ぶ事も無いとなると大き
なデメリットとして現れてくる。地域を学習の場ということを答申のどこかに入れておい
た方がいい。

委員長) これを持ち帰っていただいて再度確認をしてください。

委員) 確認ですが、Aグループを検討するうえで期限をどう捉えているのか。

事務局) 前教育委員長が議会において今年12月位までには答申し、3月までには具申をしたいと
答弁しているが、事務局としては秋頃までにはいただきたい。

委員) 統合の期限については？

事務局) 現状では全く決まっていません。

委員長) 最後に、少なくとも方向としてはこの具体的方策でいくということで良いか。この内容に
ついては少なくとも2回は検討するというにしたい。(異議なし・意見なし)

閉会あいさつ) 副委員長

今回の議論を踏まえて、次回にも活発な意見をお願いしたい。

以 上